

2023 (R5)



右馬元たし屋

3/15

358-77217

朝の薄氷 斜面に咲く梅の白い花と うぐいす

入鹿村里の春です。小浜線、山側はダンゴウハイが真盛り。ちよと小振りのアブラテンが可愛らしい。黄色の花たちが谷間に春が来たことを告げています。庭先では福寿草。うらく椿、カンツエが身体中を喜びで満してくれます。自然からいたるけさるに感じながら草を取ります。正介さんは毎日のように竹林に入って竹取りの翁になり切り汚れた竹垣ととりはすし青竹垣根に紅上げています。竹林から太く長い竹を引き取り、庭まで運ぶのが大仕事で引、繰り返りおんように、事故が起きませんようにと祈りながらみえます。

どこから見ても老人の体になつてしまつた75才と74才。転ばないように気をつけてながら、日ごとをそれぞれが気をつけている所を作業します。1日中働くと次の日はお楽しみに入つていかないと続きません。先日は南木曾へ行き藤村記念館へ40年振りです。友子母と私たち、久美は

またよらよら歩き、私はポンポン狸、あの時着ていたお洋服は久美とお揃いのエプロントレス、よく覚えています。観光客は思いの外多く、また寒い馬籠宿の坂道をソロソロ列を作り歩いて来ました。柳子の足、宇田川旅情のうた、さびさびに思い出しました。3月5日の事でした。

気がなつていた友子母の納骨を2月28日 暖かな太陽が共にいて下る中、無事に終えました。突然

イヤだ——、と叫ばれたらどうしようと内心ハテハラしましたが大丈夫でした。正介は骨壺から少し骨を取り出し封筒に仕舞いました。後日(3/14)名古屋の八事にある水谷家(友子母の旧姓)のお墓に納めて参りました。こゝで母と心置き無く地下での生活が出来るのではと思えます。103年間本当にお疲れ様でございました。ありがとうございます。

山中の古い家は先人の植えた木が大きく高くなって大変なこたです。お嫁に奉じた頃より随分うら蒼とし、お分晩秋の落葉の量が多くなり、今も重機を入れたいとうにも始末がつかない程に……。今日は竹林の伐採と頼みやっております。この後はホップと、そして樺、杉、栗、檜...書きながらドドーンと疲れてしまいます。ちよと庭に出て福寿草に慰めてもらいます。マスクは自由になつたようで、が恐らくもう少し続けるつもりです。桜とどうすかですね。